

京都新聞に掲載されました

二〇二四年(令和六年)十二月十九日 木曜日 朝刊 六面

湖国から
健康を
考える



ホームページはこちら
バックナンバーを
ご覧いただけます



平均寿命だけでなく、健康寿命も男女ともに全国上位の滋賀県。その秘密は自然に近く、暮らしやすい環境にあるとも言われています。「湖国から健康を考える」では、日頃気になる身近な症状から、がんや脳卒中まで、幅広い病気の治療と予防について、それぞれ専門の医師に聞きました。

痛みやだるさ、生活に支障も

琵琶湖大橋病院



循環器内科副部長
寺田 和始 氏

るさ、むくみ、こむら返りといった症状が出て、生活に支障を来すことがあります。ひどくなると、皮膚の黒ずみや治りにくい潰瘍を生じます。国内の患者数は約900万人に上るとみられ、とりわけ妊娠・出産を経験した女性は発症リスクが高いといわれています。決して珍しい病気ではありません。

Q 原因は。

A 心臓から動脈を通過して足先へ送られた血液は、静脈を通り重力に逆らって再び心臓に戻りま

す。ただ、逆流を防ぐ血管内の静脈弁が壊れることがあり、滞留した血液の影響で血管が瘤のように膨らみます。遺伝的要因や体質、加齢のほか、長時間の立ち仕事も要注意です。命に別条はないとして軽視しがちですが、自然に治ることはありません。放置すると、徐々に病状が進行していきます。足のこむら返りやだるさなどに悩む人は多く、症状が出てくれば適切な治療が欠かせません。一歩踏み出して専門医に診てもらってください。

Q 治療方法は。

A 主に血管外科で扱いますが、専門外来を開設している病院

もあります。いろいろな症状の静脈瘤があつて、それぞれ治療方法が異なります。まず超音波(エコー)検査で診断し、患者さんと相談してゴールを決めて最適な治療を選びます。近年は、原因になっている静脈自体をレーザーや高周波で焼くなど、体への負担の少ない簡単な治療法が主流です。見た目が気になる網目状やくもの巣状といった軽症の場合、静脈に薬剤を注射して固めるという方法もあります。弾性ストッキングを用いた圧迫療法は、痛みやだるさを改善するために重要な治療法ですが、なかなか続かないことも多く、医療者のサポートが必要です。

下肢静脈瘤

Q 下肢静脈瘤とは。

A ふくらはぎなど足の静脈が

ぼくぼくと浮き出る病気です。外見上の問題だけでなく、痛みやだ